

②<地域をフィールドにした学びづくり>

学校と地域が協力・連携し、一体となって子どもを育むための校内研修は？

【キーワード】 知る 体験する 活用する

【事例1：地域に学ぶ研修とは】

1 ねらい

地域に学ぶ研修を行う中で、地域で大切にしているものや、地域の方の思いや願いを理解する。

2 内容

月	内 容	担 当
4～5	授業に生かせそうな地域の素材を収集する	研修係
6～8	地域に学ぶ研修の実施【事例1】 研修の振り返り（学年会など）【事例2】	研修係 学年会
9～	授業の実践	各学年等

3 方法

(1) 学校評議員会、運営委員会（信州型CS）、PTA役員会などの場を通じて、郷土史家や経営者、種々の専門家など地域で活躍する方々の情報を得て、研修場所を選び、目的をもって参加できるようにする。

(2) 「ひと・もの・こと」に直接的に触れ、地域の方の思いや願いが感じられるような研修とする。（以下は例）

- ・徒歩で学区内を散策する。
- ・歴史資料館、博物館などに出かける。
- ・講師の方を学校に招いたり、インタビューに出向いたりし、互いの思いを知り、願いを伝え合う。

(3) 学年会や教科会等で研修の振り返りをし、地域素材を扱う授業を構想する。

4 校内研修の様子（地域に出かける研修の実施 長期休み中に実施）

- ・民芸館の館長より、民芸品についての説明と館内の案内を受けた。その後、教員で展示された民芸品を鑑賞した。
- ・「民芸品をより多くの人に知ってもらい、身近に感じてもらいたい」という館長さんの言葉をお聞きし、授業でどのように生かしていけるのかを考えるきっかけを得た。



研修後のまとめ

○このような素晴らしい場所が学区内にあることを初めて知りました。社会科の授業などで、歴史と関連付けて生徒に紹介していきたいと思いました。

（基礎形成期の教員）

➤セルフチェック②-1

○学習したい内容によって、どのような場所を訪ればよいかなど、一目で分かるような資料を作成し、先生方の地域理解や、生徒の学びへとつなげていきたいと思いました。（充実期の教員）

➤セルフチェック②-8

【事例2：地域に学ぶ研修を授業へ生かすには】

1 ねらい

地域に学ぶ研修を振り返り、地域素材をどのように教材化していくかについて考える。

2 内容

- (1) 研修の振り返りと地域が抱えている課題について発表し合う。
- (2) 地域素材を教材化した授業を構想する。
- (3) 授業を実践する。

3 方法

- (1) 研修を終えて、素材の魅力や生徒に学ばせたい内容を考え、今後どのように授業に生かしていくかについて発表し合う。
- (2) 題材を通してつける力を決めだし、単元の流れを構想する。

4 校内研修の様子

・「民芸品についての認知度が低い」、「地域のよさを引き継いでいく若者がいない」という課題が挙げられた。そこで、今後どのように授業に生かしていくかを話し合った。

・どのような学習の形態があるか、考えられる授業を構想し、発表し合った。

① 教科学習の視点から



美術の授業では、工芸分野の学習で、和紙染めの題材で民芸品特有の柄を紹介し、染め方の工夫に役立てることができると思います。

② 総合的な学習の視点から



館長さんをお招きして講話をしていただくのはどうですか。生き方や考え方に触れることは、職場体験学習の充実につながると思います。

・学年会や教科会等で具体的に検討し、授業を構想した。

研修後のまとめ

○学校に講師の先生を招いたり、実際に場所を訪れたりするような体験的な学習を通して、生徒の記憶に残る授業にしていきたいと思いました。

(基礎形成期の教員)

➤セルフチェック②-2

○自分が住んでいる地域に、民芸運動の中心になって活動した染色工芸家がいたということを生徒に知ってもらいたいという願いで授業を行いました。授業を通して、染め物だけでなく、自分の住んでいる地域で大切にされてきた民芸品に興味・関心をもち、更に知りたいという願いをもった生徒がいて、地域に根付いた学習を行ってよかったと思いました。

(伸長期の教員)

➤セルフチェック②-6

○小学校からの継続的な学びを意識して研修に臨みました。今までの積み重ねが生かされ、新たな発見ができるような授業ができるといいです。

(充実期の教員)

➤セルフチェック②-9

研修後に行われた授業

- ・美術の授業では、松本市で民芸運動を広め、和紙染めを制作してきたことで有名な三代澤本寿さんについて紹介し、染め方の工夫を知った。
- ・実際に紙の折り方や色の使い方を工夫し、紙を染め、伝統的な染め方について理解を深めた。
- ・完成した作品を展示し、鑑賞し合った。

